

編集後記

<特集：アルミ・銅>

* 2008年 (Vol.58, No.3) 以来4年ぶりの「アルミ・銅」特集号をお届けいたします。アルミニウム合金は軽量性、耐食性、加工性、低温特性、導電性、熱伝導性、リサイクル性に優れるとともに、光・熱・電波の反射性や非磁性の特性をもつため、それら特性を活かして、輸送機、容器包装、建築をはじめとする多くの産業分野で使われています。また銅合金も、導電性、熱伝導性と加工性に優れるため、IT産業を支える電気・電子機器や、熱交換器などに用いられて我々の日常生活を支えています。

* これらアルミニウム・銅合金のもつ特性は、時代の要請である省資源、省エネルギー、低炭素社会、循環型社会の構築に貢献するものであり、また発展著しい情報通信・半導体分野などにおいてもその技術革新を支える基礎テクノロジーとなるものです。したがって、今後如何に社会経済環境が変化しようとも、そ

の素材特性を活用した利用拡大がますます望まれることは確実と考えております。

* 巻頭言で述べましたように、当社のアルミ・銅事業部門はアルミ板、アルミ押出、アルミ鍛造、銅板、銅管の5分野の事業を中心に展開し、それぞれオンリーワン製品を数多く実用化して前述の社会的なニーズに対応してきました。今回の特集号では、そういった当社5分野のオンリーワン製品を支える、材料技術の開発状況、生産技術の発展状況、材料・製品の利用技術の最新の進捗をご報告させていただきました。当社はこれら特徴のある技術を核とし、今後とも新製品・新技術の開発、提案を継続し、グローバルに展開する市場状況に対応していく所存であります。需要家の皆様をはじめ、関係各位の一層のご理解とご助言を賜れば幸いです。

(橋村 徹)

次号予告

<特集：溶接・接合技術>

* 当社溶接事業部門の溶接材料は、国内での実績をもとに、早くから海外に事業展開しています。具体的には1968年タイに電弧棒の生産販売拠点を設立して以来、45年の歴史を有しています。また、溶接事業は売上や収益の絶対値では他の事業に比べて小さいですが、品質の安定性と技術力の高さは国内外で高く評価頂いています。

* 現在は、海外に9生産拠点、4営業所を有し、国内6生産拠点と合わせて、国内外で事業を展開しています。

* 2007年に自動車車体用材料特集号において本技報に数件掲載していますが、溶接単独としては2004年「溶接・接合技術特集」以来であり、9年ぶりです。

* さて、次号においては、最近のアーク溶接を中心とした溶接・接合技術開発の方向性を概観し、海外事業ビジョンも併

せて示します。開発を強化している「溶接ソリューション」を中心に、新開発の溶接材料、溶接ロボットとその関連技術、溶接冶金、さらにはレーザーや電子ビームを活用した溶接技術やその継手特性に関して報告します。

* 「溶接ソリューション」とは、溶接の材料やシステムのみならず、両者を融合させたプロセスを提案することです。具体的には、顧客が高能率に健全な溶接が行えるように、トータルで技術を提供しようとする試みです。

* 溶接事業部門の技術開発部隊は、湘南の地藤沢にあり、12年4月には「技術センター」を新設しました。「世界で最も信頼される溶接総合企業を目指す」ことをビジョンとし、新しい溶接技術を世界に向けて発信しています。

(清水弘之)

<<編集委員>>

委員長	杉崎康昭
副委員長	中川知和
委員	井上憲一
	清水弘之
	竹之下登
	中島悟博
	橋村徹志
	前田恭毅
	三村啓之
	森吉省二
	<五十音順>
本号特集編集委員	橋村徹

R&D[®] 神戸製鋼技報

第62巻・第2号 (通巻第229号)

2012年10月10日発行

年2回 (4月, 8月) 発行

非売品 <禁無断転載>

発行人 杉崎 康昭

発行所 株式会社 神戸製鋼所

秘書広報部

〒651-8585

神戸市中央区脇浜町2丁目10-26

(神鋼ビル)

印刷所 福田印刷工業株式会社

〒658-0026

神戸市東灘区魚崎西町4丁目

6番3号

お問合わせ先 神鋼リサーチ株式会社

R&D 神戸製鋼技報事務局

〒651-2271

神戸市西区高塚台1丁目5-5

(株)神戸製鋼所内

FAX (078) 992-5588

rd-office@kobelco.com